



矢野会長

「休校式典」の様子

午後からは“地域の人”や“卒業生”の方達が集まり、「休校式典」が開かれました。

「田ノ口小学校」は、1875（明治8）年に上田の口に廃寺を利用した「上田ノ口小学校」が設立、下田の口には「下田ノ口小学校」が大方地区唯一となる校舎が新築されました。

1886（明治19）年8月に「下田ノ口簡易小学校」として設立され、2006（平成18）年3月末で休校となった「馬荷小学校」との統合により、同年4月より現在に至っています。

139年余りの長い歴史があり、開校以来2,641人の卒業生を輩出し、その中には「日本最後の私小説家」といわれる上林暁（本名：徳広巖城）さんがおられますが、近年の少子化により児童数が減少し、2026（令和8）年3月31日をもって休校することになりました。

式典では、「休校記念事業実行委員会」の矢野晃平会長から「139年と長きにわたり地域とともに歩んできた田ノ口小学校の歴史に思いを寄せ、この節目の一日を温かく見守っていただけましたこと、実行委員会一同、心より感謝申し上げます。懐かしい思い出話に花が咲き、校舎に響く笑顔や言葉の一つひとつから、この学校がいかにも多くの人々に愛され、支えられてきたかを改めて実感いたしました。田ノ口小学校は休校という形を迎えることとなりましたが、ここで育まれた絆や思い出は、これからも地域の中で大切に受け継がれていくものと信じております。これまで本校を支えてくださったすべての皆様に、深く感謝申し上げます」と感謝を伝え、長きにわたる歴史に区切りをつけました。

また在校生5名による“音楽演奏”や“行事の様子”などを紹介し、6年生から「入学したときは上級生がいっぱいたけど、どんどん減って寂しかった。でも5人とも仲良くて楽しかった。139年間も私たちを見守ってくれて、ありがとう」と6年間の“思い出”や“感謝”の言葉が述べられました。

卒業生”からは休校を惜しむ声が相次ぎ、「私も娘も孫も3代お世話になっていましたので、やっぱり学校がなくなるのは非常に寂しいです。休校は仕方ないですね。でも寂しい。非常に寂しいです」、「学び舎で過ごした楽しい思い出は、いつまでも卒業生の心に残り続けます」と、“校舎に刻まれた思い出”を蘇らせていました。



在校生による音楽演奏



参加された卒業生の皆さん

## “はだしマラソン”の調理スタッフを募集しています！！

今年も恒例の「第41回高知大方シーサイドはだしマラソン全国大会」が、5月3日（日：憲法記念日）に“開催され、主催者より、食事提供の依頼があり、お手伝い頂ける方を募集していますので宜しくお願いします。

■連絡先：集落活動センターかきせ（0880-43-3306）

